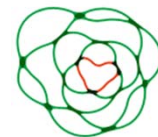


東日本大震災直後の若年層の生活行動及び幸福度に対する影響

(内閣府経済社会総合研究所 New Working Paperより)

京都大学こころの未来研究センター
准教授 内田由紀子



京都大学 KOKORO RESEARCH CENTER • KYOTO UNIVERSITY

こころの未来研究センター

目的と意義

目的： 若年層(20-39歳)に対して震災前後に行ったインターネットアンケートを用い、被災地以外において東日本大震災が与えた影響を、生活行動、人生観、幸福度、の3点から明らかにすること

意義①：次世代を担う若年層における震災への反応や行動・価値観の変化等の検討は、創造的復興という未来に向けて重要な役割

意義②：大震災の幸福度への影響の分析は、幸福度の研究にも示唆を与える

先行研究

- 国内、海外問わず、震災の影響はほとんど直接の被災者に関するもの。
 - 心理、健康、収入、ストレス反応、住居など
- マクロ的なものは経済分野に限定されている
- 幸福度に関する研究の分野においても、震災などの自然災害が幸福度に与える影響を中心的テーマにした実証研究は見られない
- 震災が、被災者以外の国民全体の生活行動様式や価値観、幸福度に対する影響を分析した研究は行われていない

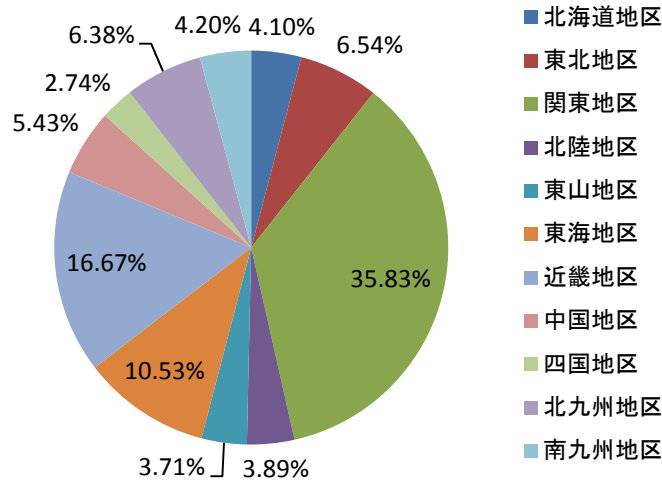
⇒ 本調査の特徴

データ

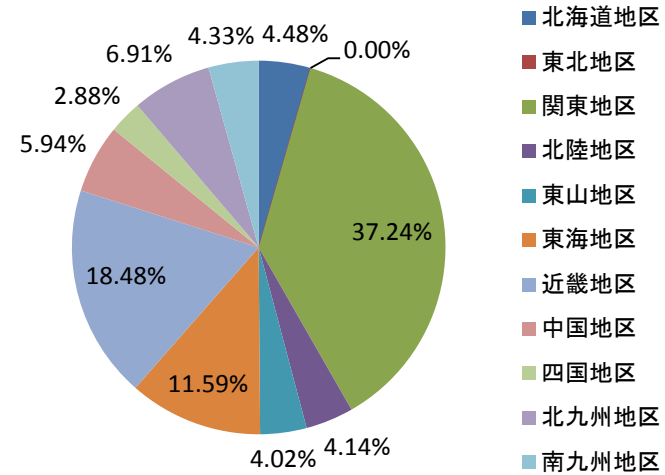
- 調査方法
 - 調査会社の登録モニターに対するインターネットアンケート
- 調査内容
 - 幸福度、雇用、家族関係など(第2回調査では上記に加え、自身の幸福度における震災の影響や震災直後の生活行動等も調査をしている)
- 調査対象
 - 第1回(平成22年12月下旬)全国、20,000サンプル
 - 第2回(平成23年3月下旬)東北6県及び茨城県を除いた全国、16,000サンプル(うち10,744は第1回と同一サンプル)

データの地域区分別割合

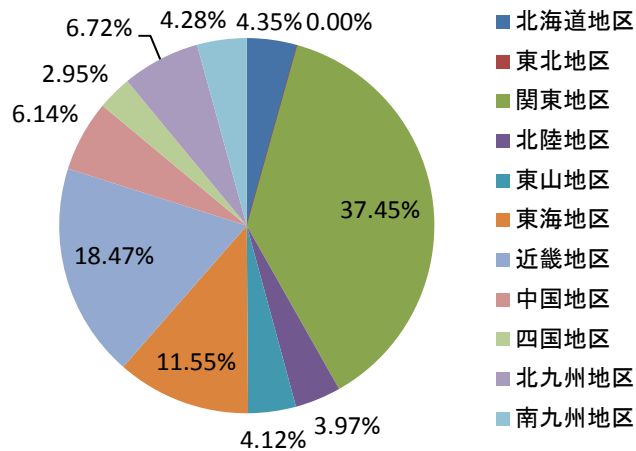
第1回調査の地区分類別割合



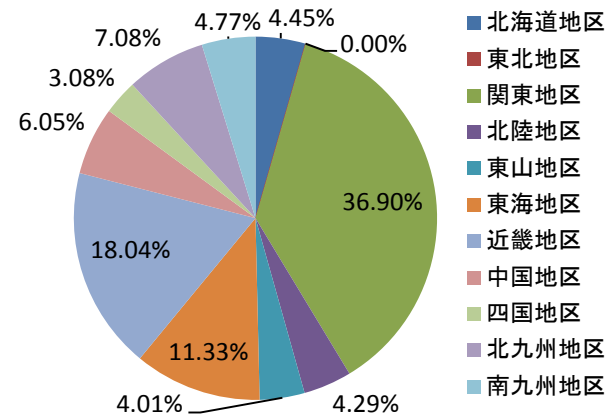
第2回調査の地区分類別割合



パネルデータの地区分類別割合

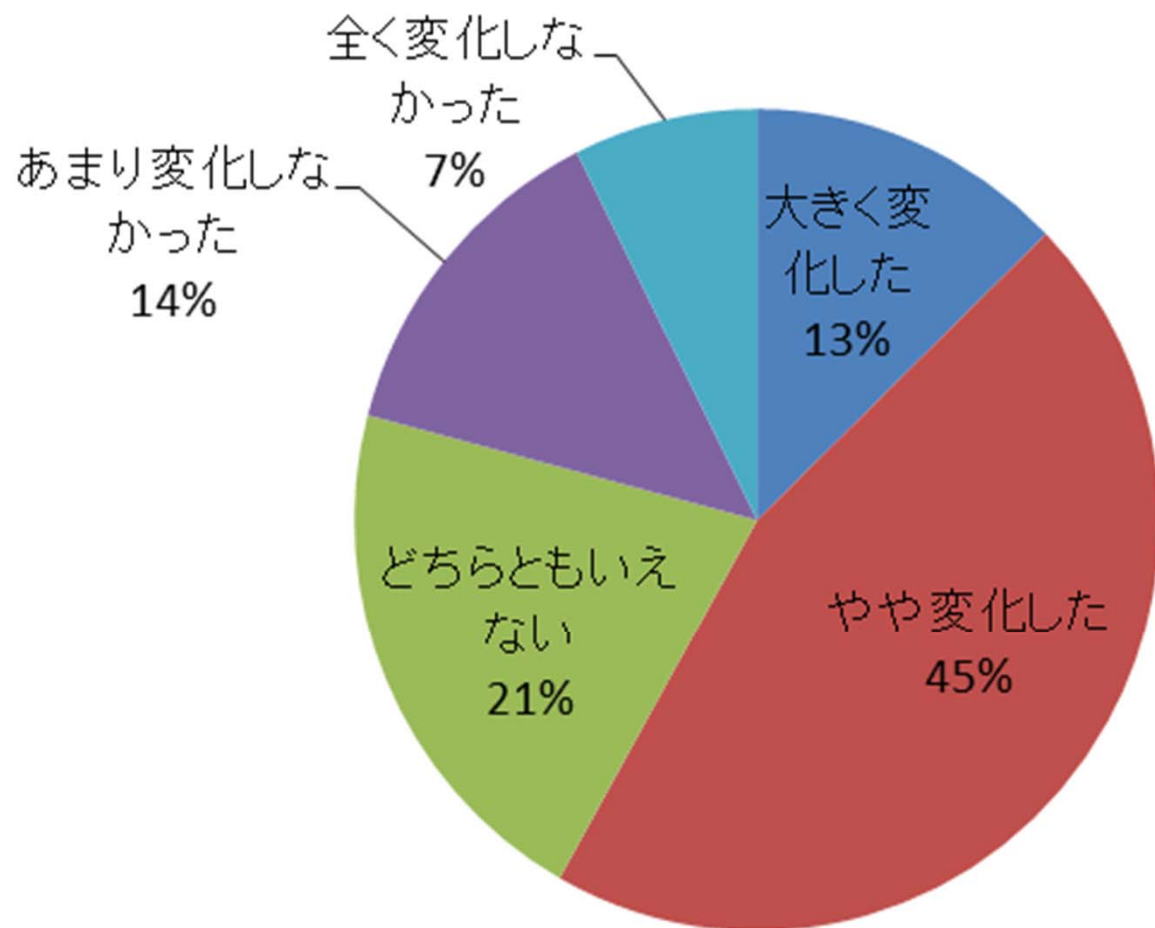


東北地区及び茨城県を除く住民基本台帳の地区分類別割合(20-39歳)



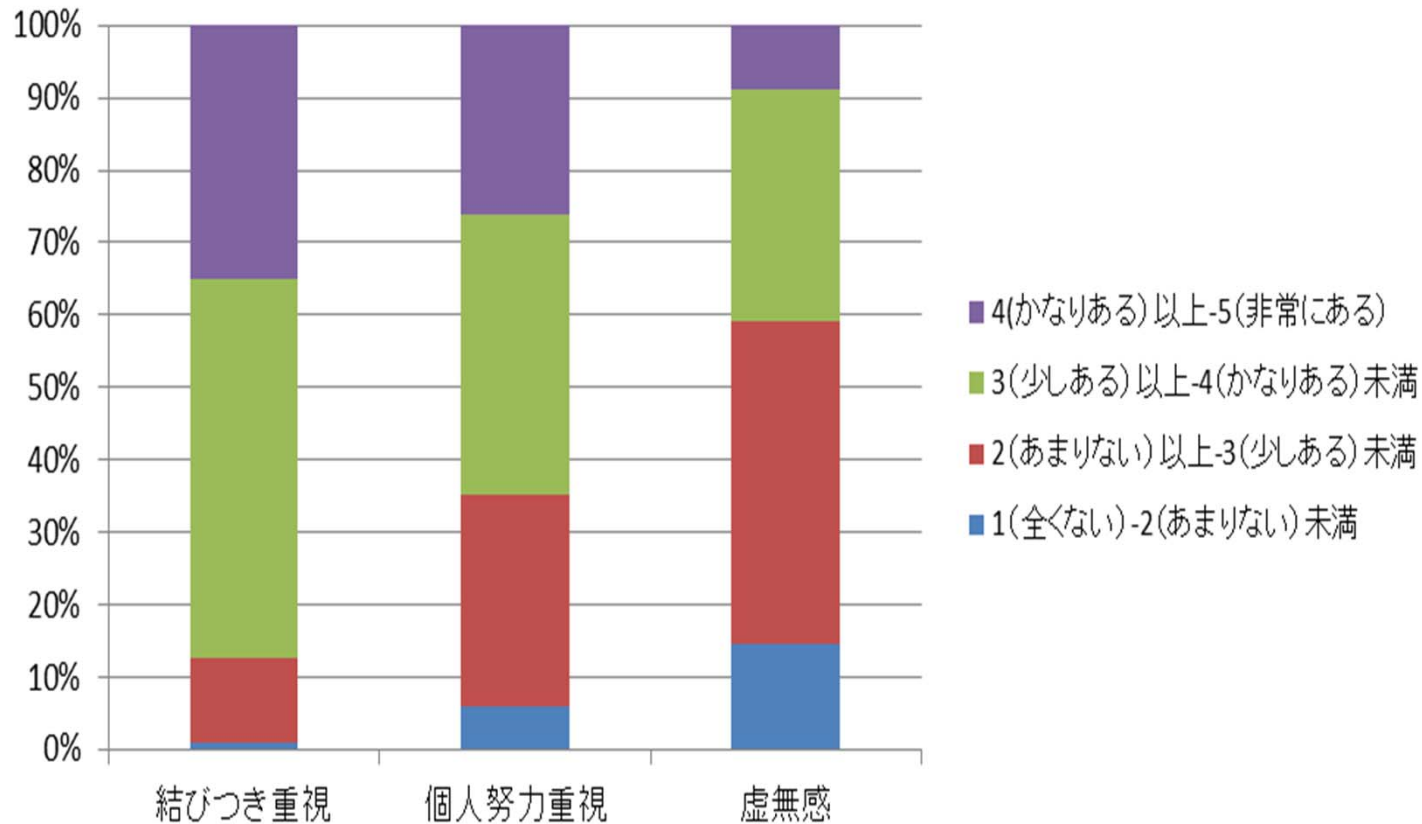
(備考) 内閣府経済社会総合研究所「第1回、第2回あなたご自身に関する調査」、住民基本台帳人口より作成

人生観や価値観の変化



(備考)内閣府経済社会総合研究所「第2回あなたご自身に関する調査」(パネルデータ)より作成

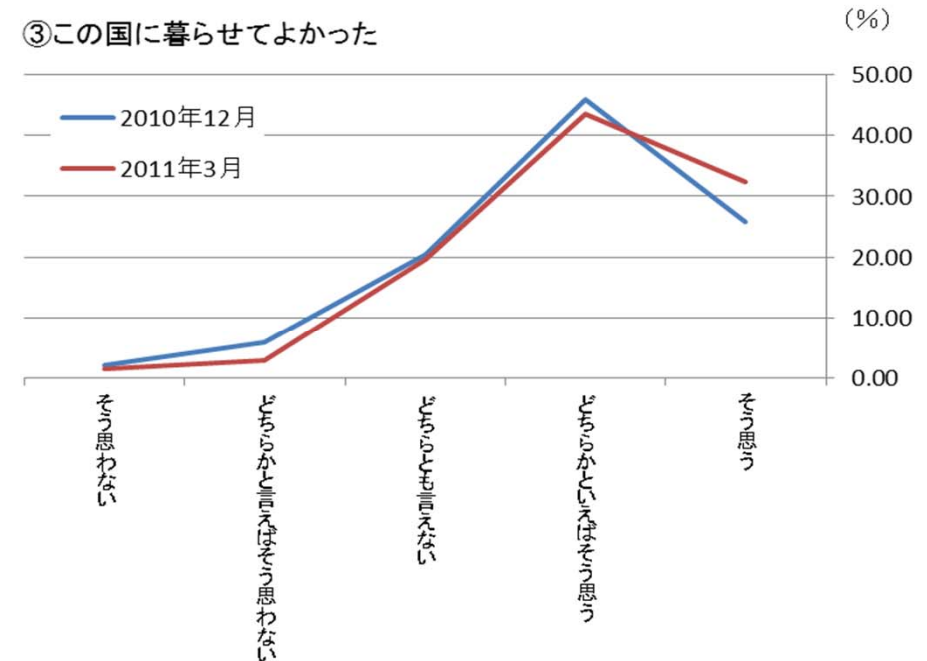
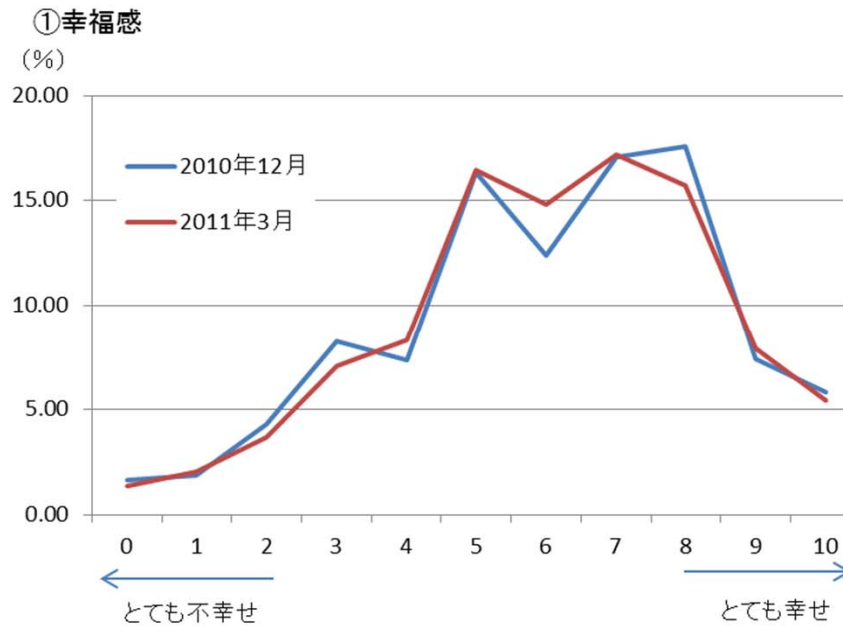
人生観; 人生観・価値観の変化内容 (下位項目の平均点)と回答者比率



(備考)

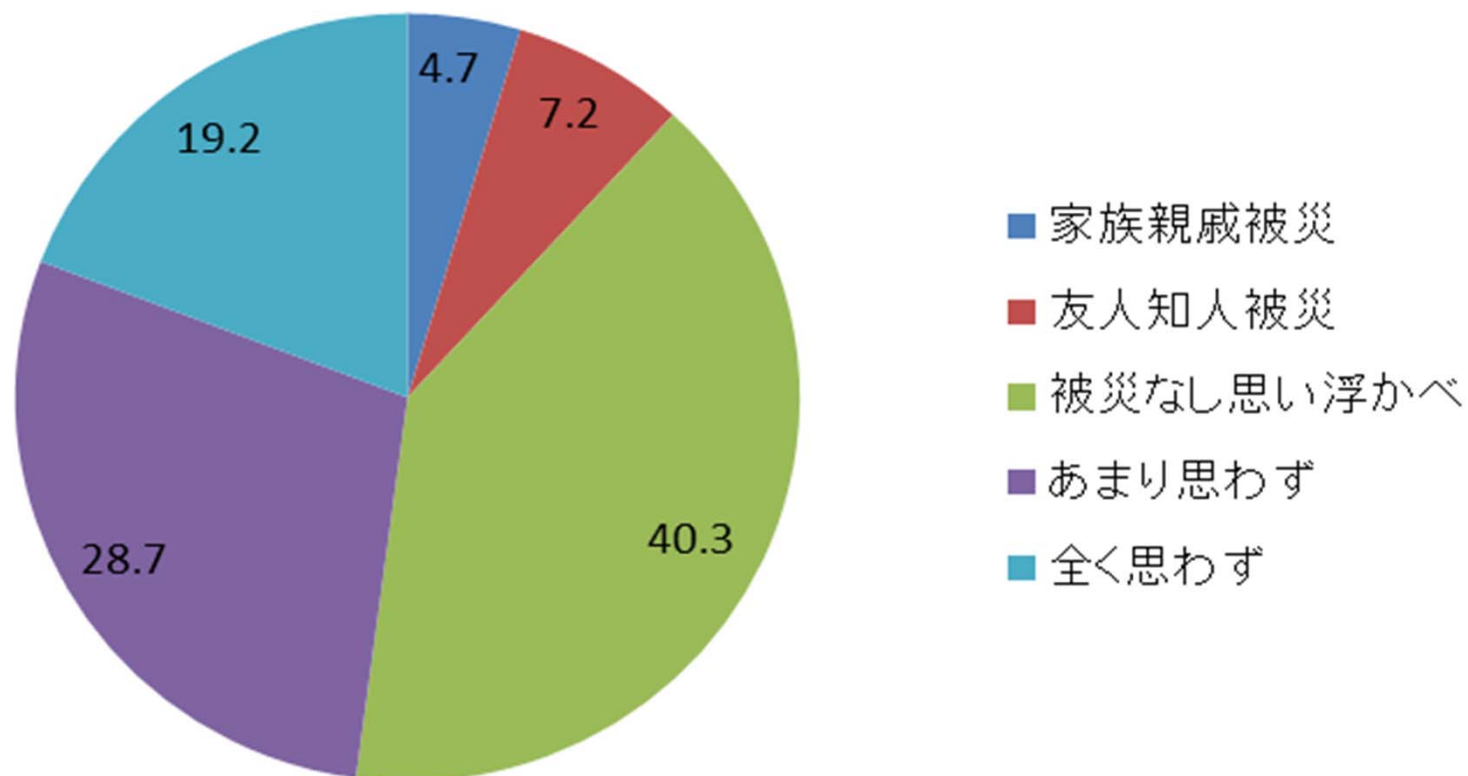
1. 内閣府経済社会総合研究所「第2回あなたご自身に関する調査」(パネルデータ)より作成
2. 回答者比率は、例えば、結びつき重視については、まず項目1、3、9、10、2の平均点を個人毎に算出し、その平均点が4~5だった者の数をカウントするなどして構成比を算出。

幸福感;幸福度の変化 (パネルデータ)



(備考)内閣府経済社会総合研究所「第1回、第2回あなたご自身に関する調査」(パネルデータ)より作成

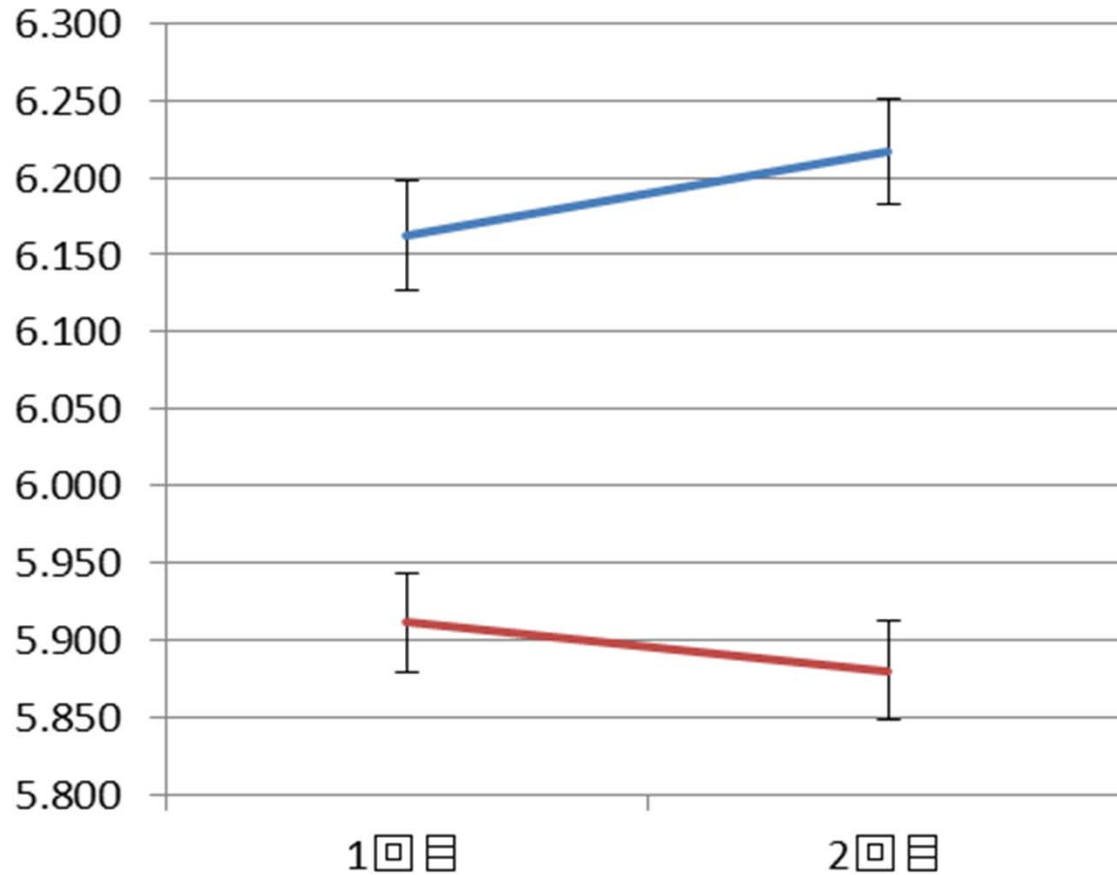
幸福感の評定時の大震災の想起



(備考)内閣府経済社会総合研究所「第2回あなたご自身に関する調査」(パネルデータ)より作成

地震の想起の有無と幸福度の変化

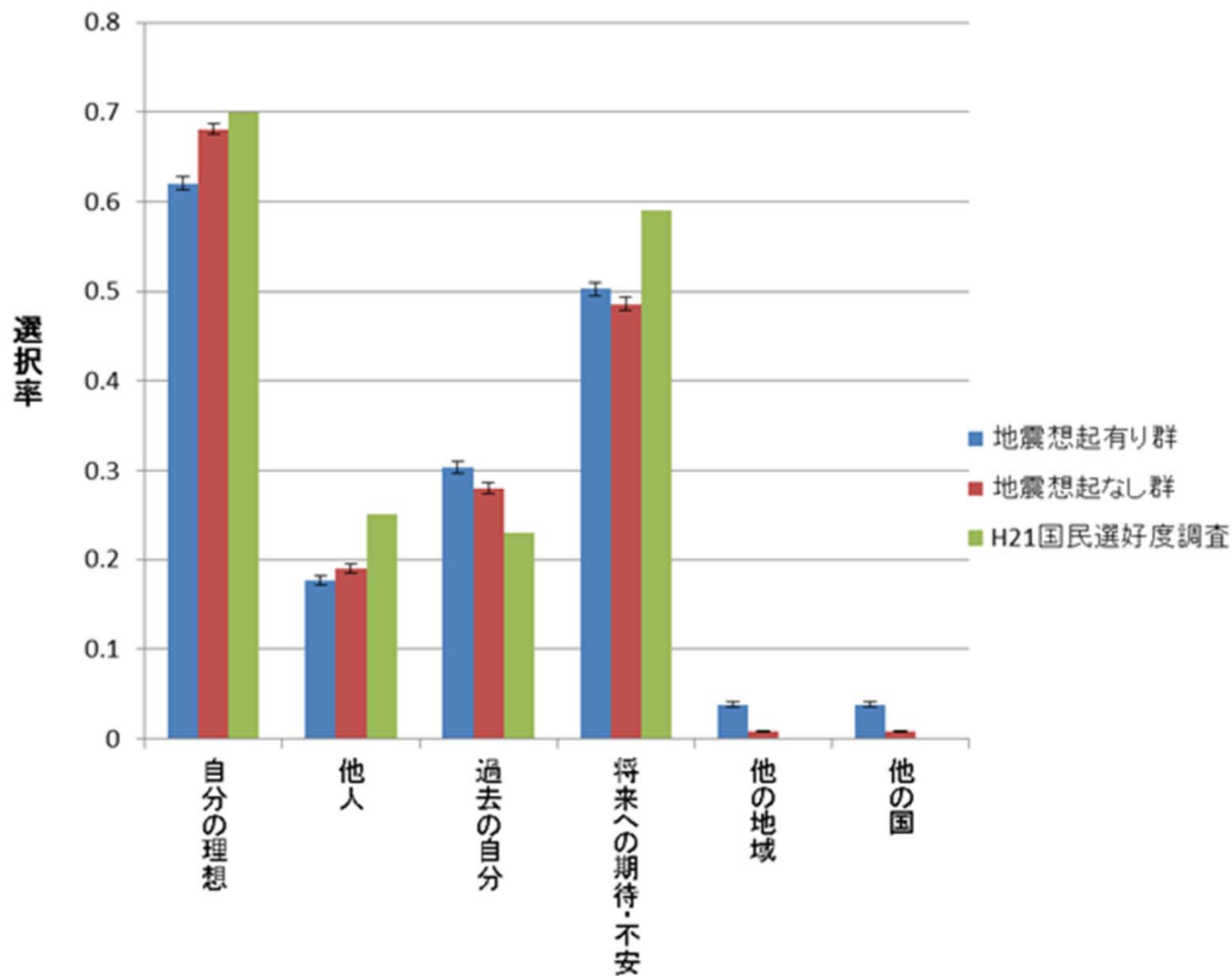
幸福度「現在、あなたはどの程度幸せですか」
「とても幸せ」：10点、「とても不幸せ」：0点



— 地震想起有り
— 地震想起なし

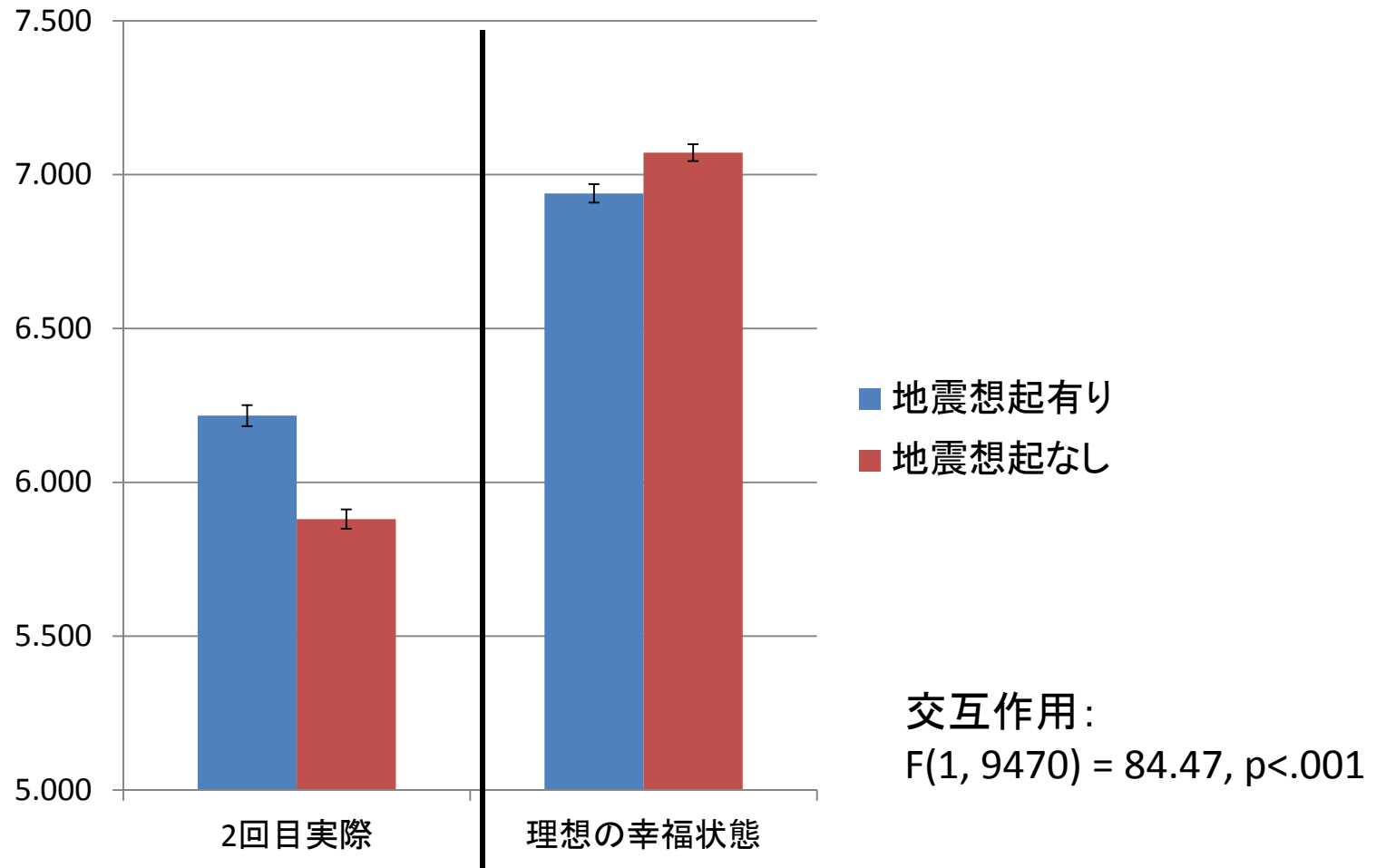
交互作用：
 $F(1, 9468) = 5.96, p < .015$

地震の想起の有無と幸福度判断基準



(備考)内閣府経済社会総合研究所「第2回あなたご自身に関する調査」パネルデータ、平成21年度国民選好度調査より作成

地震の想起の有無と実際・理想の幸福度



幸福度「現在、あなたはどの程度幸せですか
「とても幸せ」:10点～「とても不幸せ」:0点

理想の幸福状態(「不幸せだけを感じている状態:0点、幸せと不幸せが半々くらい:5点、幸せだけを感じている状態:10点)

幸福度；重回帰分析

- 女性(+)
- 結びつき重視(+)
- 虚無感(-)

	標準化係数		
	ベータ	t 値	有意確率
性別(男=1 女=2)	.048	5.117	.000
学歴	.018	1.997	.046
第1回の幸福感	.664	70.768	.000
変化:結びつき重視	.100	9.165	.000
変化:個人努力重視	.009	.872	.383
変化:虚無感	-.048	-5.119	.000

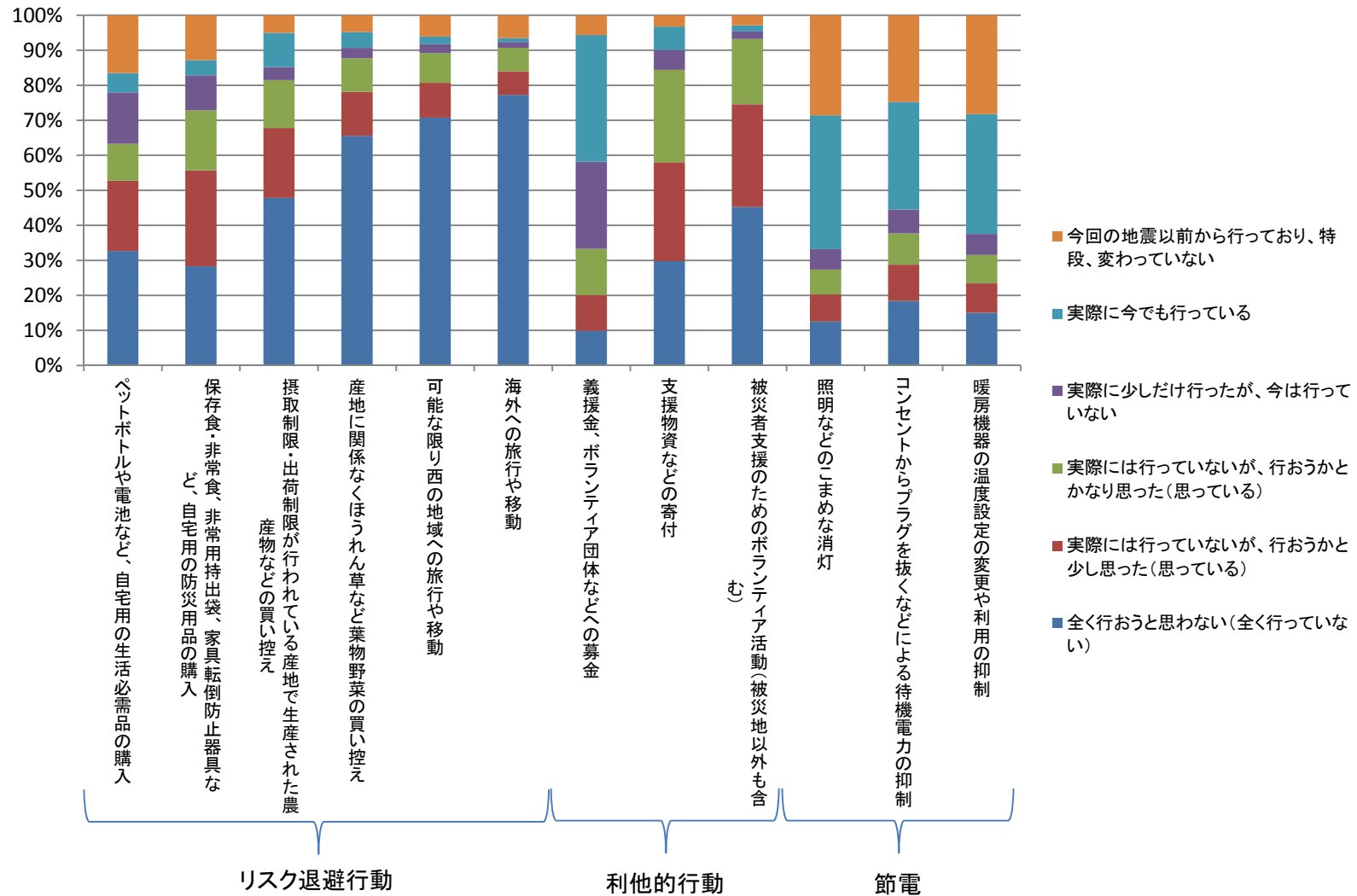
まとめ

- 利己的な行動はあまり見受けられず、全体としては被災地に思いをはせ、関係性をリソースとしようとする意識を強めている傾向
- ただし、若年層には2つの階層に分かれていると考えられる点は留意が必要
 - 幸福度を判断する際に今回の東日本大震災について思い浮かべた人たちは、震災前からもともと幸福度が高く、震災後にさらに高まる傾向にあった
 - 東日本大震災について思い浮かべなかった人たちは震災前から幸福度が低く、震災後も高まっていなかった
- 関係性のネットワーク、個々人の共感性などが日本社会のレジリエンスを支える可能性

限界

- ① 直接の被災者の心の動きはとらえられず
- ② 若年層と他の年代の比較の必要
- ③ インターネット調査特有の問題
- ④ 低幸福度層の要因分析：第1回目調査結果の精査により、今後より詳細な検証は可能

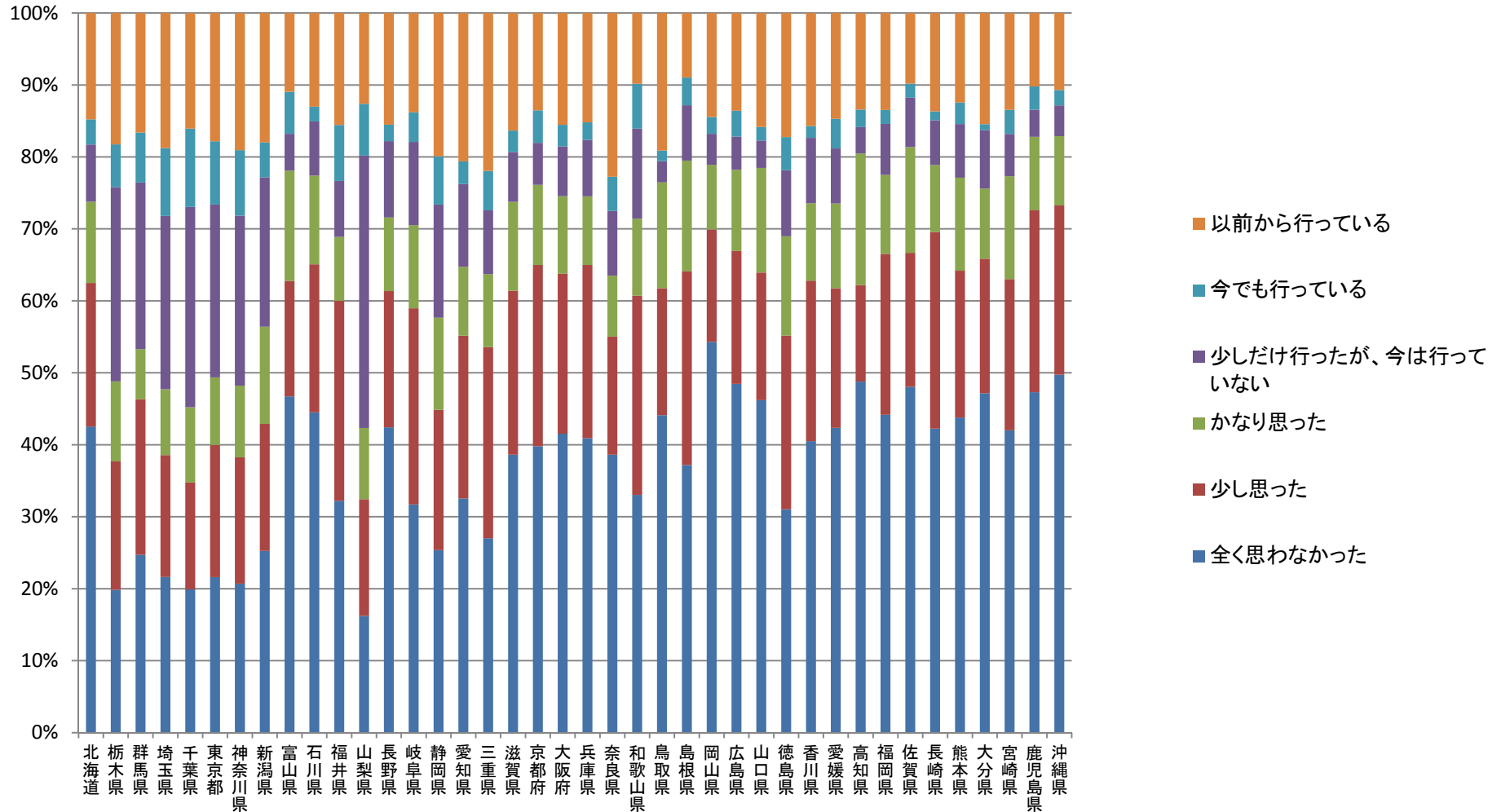
＜参考＞生活行動（全体的な傾向）



(備考)内閣府経済社会総合研究所「第2回あなたご自身に関する調査」より作成

＜参考＞生活行動

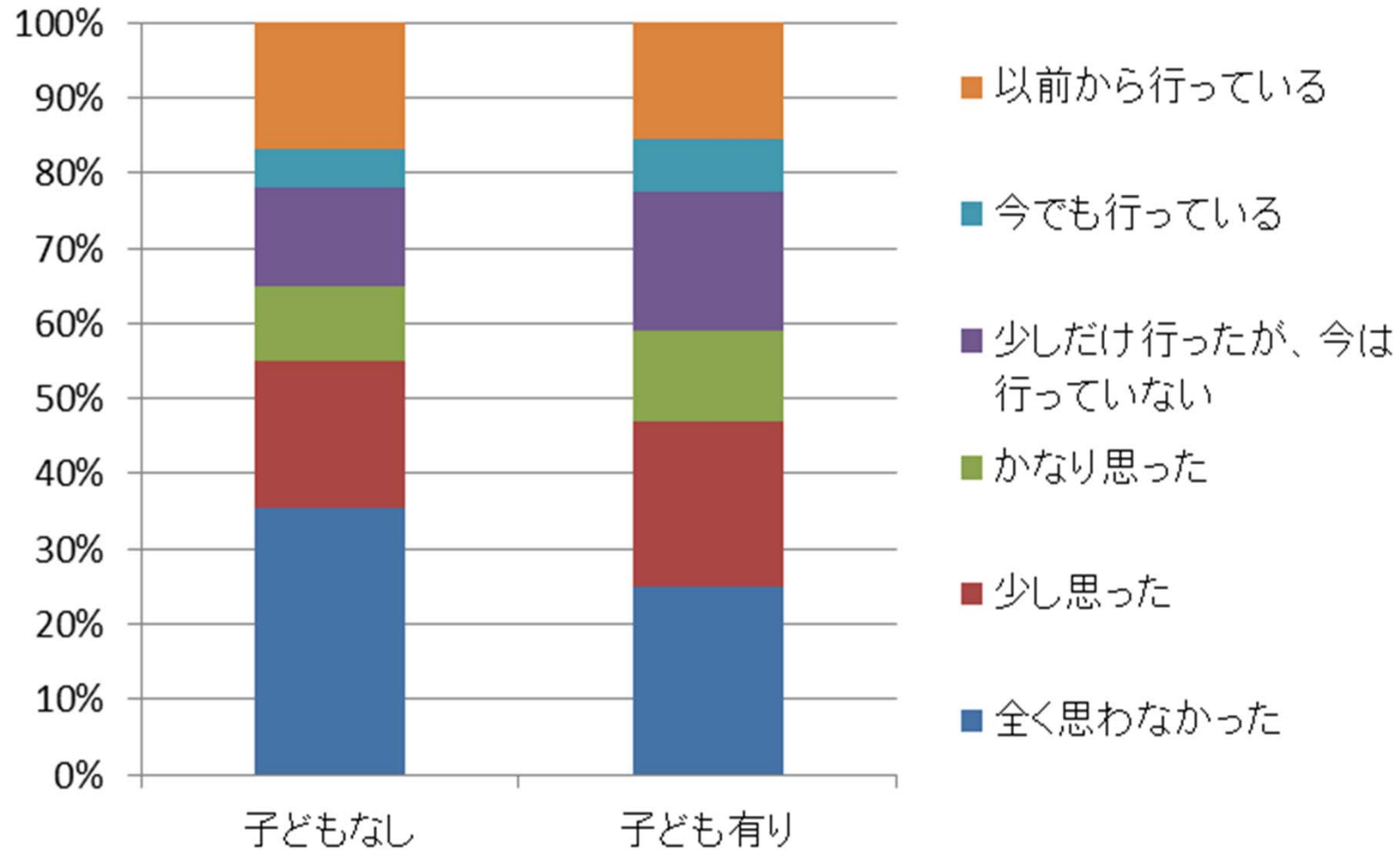
居住地と生活必需品の購入行動



(備考)内閣府経済社会総合研究所「第2回あなたご自身に関する調査」より作成

＜参考＞生活行動

子どもの有無と生活必需品の購入行動



(備考)内閣府経済社会総合研究所「第2回あなたご自身に関する調査」より作成